

記者発表				
月/日 (曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤルイン)	発表者名 (担当名)	その他配布先
7/29 (木) 10:00	県立考古博物館 企画広報課	(079)437-5589	事業部長 高瀬 一嘉 (学芸課長 池田征弘)	

日本遺産「国生みの島・淡路」認定5周年記念 夏季企画展「淡路島発掘」について

「国生みの島・淡路」として日本遺産に認定された淡路島は、海や山などの自然に恵まれ、独自の文化が発展してきました。

このたび、発掘調査成果を中心とした淡路島での祭祀や生業、島内外の政治関係と交流をひもとく展覧会を実施し、淡路古代史の魅力を島内外に広く発信します。

展覧会の概要

- 会期 令和3年7月22日(木・祝)～8月29日(日)
 時間 午前9時30分～午後6時(展示室への入場は午後5時30分まで)
 会場 兵庫県立考古博物館特別展示室
 主催 兵庫県立考古博物館
 共催 兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
 後援 淡路島日本遺産委員会

観覧料

大人	大学生	高校生以下
200 (150) 円	150 (100) 円	無 料

※()は20名以上の団体料金

70歳以上の方は大人料金の半額

障害者手帳提示で本人は75%減免、介助者1名は無料

〈展示構成〉

- 狩人の時代から農耕の時代へ
- マツリの源流
- 海をはさんだ交流と新しいマツリ
- 淡路国成立とマツリゴト
- 海人(あま)の生業(なりわい)

〈主な展示品〉

- ◎ 子持勾玉(こもちまがたま) 雨流(うりゅう)遺跡(南あわじ市)出土
 県指定文化財 当館蔵

水辺の祭祀などで使われた滑石製の祭祀具で、流路跡から出土しました。勾玉の背面・腹面・側面に、合わせて10個の小さい勾玉が削り出されており、古墳時代の特徴的な形態を示すものです。



◎ **横杓子(よこしゃくし)** 下加茂遺跡(洲本市)出土 県指定文化財
当館蔵

浅い椀状の匙部(さじぶ)に対して横方向に湾曲した柄が取り付くもので横杓子と呼ばれています。クワ属の用材を丁寧に加工しており、水銀朱で朱彩されていることから、祭祀具として使われたと考えられます。弥生時代中期の高度な木工技術がうかがえる逸品です。



◎ **軒丸瓦・軒平瓦** 淡路国分寺(南あわじ市)出土 南あわじ市教育委員会蔵

奈良時代中期(8世紀中頃)に創設された淡路国分寺から出土しました。屋根の軒先を飾った瓦で、軒丸瓦は複弁八葉蓮華文、軒平瓦は均整唐草文で飾られています。紀伊国分寺(和歌山県)にも同じ型で作った同範瓦(どうはんかわら)があり、南海道に沿った技術の伝播がうかがえます。



軒丸瓦



軒平瓦

〈関連行事〉

◆ 講演会(参加費無料)

8月 7日(土)「淡路島の考古学を楽しむ」

中川 渉(当館学芸員)

時間:13:30~15:00 定員:72名 場所:当館講堂

*考古博物館のホームページか往復はがきで事前予約が必要

◆ 記念シンポジウム(参加費無料) *兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室主催

8月 1日(日)「考古学と文献史学からみた古代の淡路-海人(あま)と国生み神話-」

時間:13:00~16:30 定員:72名 場所:考古博物館講堂

*県立歴史博物館のホームページか往復はがきで事前予約が必要

記念シンポジウムに関する問い合わせは、県立歴史博物館ひょうご歴史研究室

(TEL 079-288-9011)まで

※ 企画展の詳細については別添のチラシのとおり

事前予約の申込み方法・期間、参加費、定員などについては、ホームページをご覧ください。